**地の塩になるとは？ 2017 02 05**

**マタイ5: 13-20 牧師：安達均**

救い主イエスの恵みと平安が皆様の心の中に豊かに染み渡りますように！

キリスト教を信仰していない友人と話しをしていて、キリスト教の話しをするのに、抵抗を覚えますか？　私はたしかにそういう面はありますが、それでも、私が7歳で洗礼を受けたキリスト教徒であったことから、大学時代の友人とは、たまにクリスチャンの話になった。

ある夜、土曜遅く、渋谷でのある飲み会のあと、私も含めて4人で二次会に行くことになった。夜もう10時半ごろだったが、人々は圧倒的に渋谷駅方方面に向かって歩いている人が多かった。私たちは、流れに逆らって駅のほうから繁華街の方に歩いた。

それは、とても歩きにくいことを実感した。しかし、大切な議論を続けるために私たちは歩き続けた。私は「クリスチャンとして生きるのは、世の中の流れに逆らって歩く面がある。」と話した。その後、行き着いた珈琲店では、友人は、「私にはクリスチャンの友人が結構いるが、みな苦労した生活をしている。」といっていた。　彼は何を言いたかったのだろうか？

さて、今日の福音書、イエスは山上の説教を続けている場面だが、いきなり「あなた方は地の塩である。」と言われる。さらに、「塩に塩味がなくなれば、人々から捨てられ踏みつけられるだけである」とも言われる。　イエスは何をおっしゃりたいのだろう？

続けてイエスが話されたこと、塩のたとえとは違って、わかりやすいたとえ話になってくる気がする。　「あなた方は世の光である。」と言われ、そもそもランプというものは、ランプスタンドの下などに隠しておくものではなく、スタンドの上におくものであると話す。

だから、あなたがたの光も、世に輝かしなさいと。しかし、重要なことは決して、あなた方自身が目立ち、脚光を浴びなさいということではない。イエスはとても大切なことを話している。「人々が、あなた方の立派な行いを見て、あなた方の父なる神をあがめるようになるためだ。」と語られる。

そして立派な行いとは、律法に従った行為であることを示唆される。律法に従った行いとは何かというと、何百もの掟からなるトーラに著された掟をすべて守るかのごとくだ。　しかし、イエスが最も大切な掟として、神を全力で愛し、神が自分を愛してくださっているように、私たちも隣人を愛する、と語り、さらに、すべての律法は、この二つの律法を基本としていると話されていたことを思い出して良いのだと思う。

ここで、今一度、イエスが最初に言われた「あなた方は地の塩である。」ということに触れたい。　塩とはそもそもどういう存在なのだろうか。塩だけではおいしくない、存在意義としては、他の正反対の甘味やあるいはだしの味とかとといっしょになって食べ物がおいしーくなる。

 地の塩になるとは、料理でおいしい味に仕上げてくれる塩のように、世の中で社会がとても神の意思とは正反対のあやまった方向に流されている、まずくなってしまうような時、逆に正しくなる方向、おいしくなるようにするスパイスになる行為といえるだろう。イエスのいわれる地の塩になるということは、主の愛、憐れみにあふれる行動を起こすということである、そのようなスパイスになって、社会を食事にたとえるなら、おいしいたきこみごはんになる、平安な世に変えていくようなことではないだろうか。

しかし、もし塩になるということが、自分が目立つとか、有名になることが目的で行動をおこすなら、それは神の目的に反しており、人々から捨てられ踏みつけられるということになってきてしまうのだろう。

しかし、イエスの思いを表す愛をベースにした行為、それは世間がどんどん神の愛から離れていこうとするような流れの中で、その流れとは苦労しつつも逆の歩みを続けるようなことこそ、後々人々に地の塩であれといわれたイエスが賛美されることになるのではないだろうか。

最後に、日本を訪れたあるドイツの牧師が30年前くらいに話していたこを紹介したい。　日本のキリスト者は、わずか人口の1パーセントしかいない国だ。しかし、彼の結論は、それでいいのではないだろうかということ。イエスさまがあなたがたは地の塩だからとおっしゃったのだから。

 つまり、彼がいいたかったことは、ほとんどの人が塩だったら、しょっぱくてしょうがない。　塩は本当に少しでいいのだ。だから日本のクリスチャン、キリストの弟子が人数が少ないといって悲観することはなく、徹底的に愛する、敵をも愛するすばらしい奉仕をされている。そして人々はそれを見て尊敬し、そこに働かれる父なる神を讃えると言われた。　みなさんはどう思われるだろうか？　私はこの話しを聞いた時、自分の大学時代の友人のことを思いだした。あの時、彼の知人のクリスチャンたちが苦労の多い生活をしているのを見ていた。しかし、彼はその知人たちを尊敬し、そしてその中に存在する父なる神を讃えるようになると思えた。

祈りましょう。　天の父なる神、慈しみ、憐れみの主よ、どうか私たちを地の塩としてください。それは、世の流れにさからうような苦労の大きなものでしょう。　　けっして人数は多くはありませんが、そのイエスの教え、敵をも愛する慈しみに満ちたキリストの弟子が世にちらされて、さまざまな考えの違う方々と交じり合い、あなたの思いに満ちた世の中としてください。　そして、その塩の存在に気づいた人々が、愛の神を賛美する社会をもたらしてください。